

## 保育を取り巻く課題と今後に向けて

今、保育園の大きな課題は、待機児童解消に向けた取り組みです。

女性の労働力が重視され、保育所が不足してきたため、それまで認可保育所の設置は、区市町村や社会福祉法人が主でしたが、学校法人や株式会社の企業も保育所運営に参入できるようになりました。その結果待機児童解消にもつながっていますが『園庭が無くて近くに公園があればよい』『高層ビルの一室でもよい』『受け入れ人数を増やして保育してもよい』というところも多く、散歩時に公園が一杯で他に移動せざるおえなくなったり、狭い空間に0歳児から5歳児が一緒に生活したりしていることもあります。

子どもたちは、1日のうち11時間～12時間、保育所で遊び、食事や昼寝をしながら、たくさんの経験を積んで成長していきます。子どもの過ごす環境を第一に考え、安心して生活できるゆとりのある保育環境を

保障する制度にしてほしいと願っています。

もう一つの課題は、保育士不足です。保育所の増設が進み、保育士確保が困難な状況です。意欲をもって専門学校等に入った学生に、保育の魅力を知ってもらい、やりがいがあり長く働き続けられる職業であることを伝えていきたいと思います。退職者を出さない人材育成や子育てしながらでも働き続けられる環境作りが職員の定着率を高めていくことだと思います。

政府は、就学前教育(保育・幼児教育)を無償化にする方向で進めていますが、今後どうなっていくのか予測がつかないところです。課題はたくさんありますが、保育全般に関心が寄せられている今、二葉の理念を基本にその時々をしっかりと捉え、地域に根ざした保育園づくりを目指すと共に、保護者に寄り添い、子どもたちの最善の利益を追求していきたいと思います。

二葉南元保育園 園長 町田 とし江



## 二葉南元保育園 高橋 陽子

私が、二葉南元保育園に就職したのは20年以上前のことです。南元保育園も、隣の乳児院も、まだ小さい園舎だった時代でした。この20年の間に子ども達をとりまく環境もすこしづつ変わり、子育て支援の場も広がってきたと実感しています。

南元保育園では新宿区の待機児童解消に向けて、4年前に園舎を新しく建て替えて定員数を61名から110名に増やしました。また一時保育室専用のお部屋を作り、地域の待機児童解消に貢献したり、子育て支援にも役立つよう取り組んできました。

ただ近年の四ツ谷地区は待機児童が解消されつつあり、南元保育園の幼児クラスは定員割れが生じています。幼児クラスになる時期が、引越しや幼稚園に転園を考えたり、ライフスタイルを考える時期と重なっているのが、要因と思われます。幼児クラスの子どもをどう確保していくかが課題となっています。

新園舎になってからは保護者からのニーズに応え、

朝7時～18時まで開所し、プラス2時間の延長保育を行い20時までとなり、保護者にとっては就労しやすい環境になってきました。その分、子ども達の保育時間は長くなっていますが、家庭と同じような雰囲気です。ゆったりと過ごせるように心掛けています。

この移り変わりの中で、卒園児が2人、保育士となって就職しています。幼なかつた頃のエピソードを当時の職員が話してあげている姿は微笑ましいものがあります。自分が育った保育園で働きたいと思ってくれたことを私達も誇りに感じます。

「温故知新」の心。古い歴史のある保育園だからこそ、先輩達から受け継いできた、1人ひとりを認め個性を伸ばしていくこと等を大切に、後輩へとバトンをつないでいく、その中で後輩達の新しい発想を尊重しようとするのはとても大切なことだと思っています。

今後も時代や地域のニーズに応えつつ、温故知新の心を忘れずに南元保育園の在り方を模索していきたいと思っています。

## 二葉くすのき保育園 中野 志穂

私が入職した20年前の頃、保育時間は午前7時半から午後6時までの開所時間でしたが、今では延長保育で午後8時、9時までの保育園もあります(二葉くすのき保育園は現在午後7時までの保育です)。時代を反映して保育園の役割はどんどん変化してきているように思われます。

保育園に通う保護者の方々は、妊娠や出産を迎えて産休、育休を取得した後、退職せずに職場復帰を目指した方々です。復職後も1年から3年間は育児休業を取得することができますし、短縮時間を取得する方もいます。限られた時間の中で仕事をこなし、ぎりぎりの時間で急いで保育園に迎えに来る方も多くいます。親が子どものお迎えに間に合わない場合は祖父母や親戚が連絡しあってお迎えに来たり、ファミリーサポートの方のご支援で乗り切ることもあります。

“仕事と家庭の両立”…すべてをひとくくりにしてしまいがちですが、そこにはそれぞれの家庭の背景があり、様々な事情があると思います。言葉にすればたっ

たの8文字ですが、想像以上の困難さがあるのが見て感じ取れます。“お母さん少し疲れているかな？”

“顔色悪いけれど体調は大丈夫かな？”と心配になることも多くあります。時には「今日は疲れました」そう話して床に膝をつく保護者も少なくありません。

保育者はこの様な保護者の日々に向き合っていますが、保育園はまず、“子どもにとって”を1番に考え、そのために何が出来るのかを職員間で考え話し合っています。保育者は子どもを真ん中に据えて、子どもの育ちを保護者とも共有し、一緒に考えることを大切にしています。そして、私達は仕事と家庭の両立を目指してその厳しい日々を過ごしている保護者への支えになるために、“私たちにできること”は何かを常に考えながら日々の保育をめざしていきたいと思っています。



# 各施設の最近の様子



## 二葉乳児院

### 幼稚園に通って

#### くじらホームリーダー 東島 由季

乳児院には、定員5名のくじらホームがあります。家庭復帰や里親委託を目指すお子さんが、2歳を過ぎても措置変更をせずに乳児院から送り出せるように…と作られました。開設7年目になります。

3歳を過ぎても在院しているお子さんは、幼稚園に通います。今年度もお世話になっているのは、教会付属のアットホームな幼稚園です。区外になる為電車と徒歩での登園ですが、職員と1対1でのんびりと過ごす時間でもあります。登園後の自由遊びは、外で遊ぶ子、渡り廊下を違って違うクラスで遊ぶ子、その様子をクラスに関係なく先生方がしっかりと見守っていて下さいます。

行事の中で毎年楽しみにしているのが誕生日会です。お誕生日児の保護者も招待され、在園児分のお昼ご飯を作り、クラスで一緒に食べて…という、子ど

も大人も楽しい1日です。自分の誕生日が近くなると、担当保育士に「〇〇ちゃん(担当の名前)ご飯作るの?」「一緒に食べるの?」と聞いては、ニコニコ心待ちにしています。当日は前にでて、名前と歳を聞かれるインタビューがあります。普段は甘えん坊の子も、沢山の人の前でしっかりとお話している姿を見ると、こちらも嬉しくなります。

乳児院の中での年長児の保育は、初めて体験することも多く、日々驚きと発見の連続です。関わりの中で迷うこともありますが、いつも温かく見守って下さる幼稚園の先生方やお母さん方に助けられています。ホームの特性上、登園期間は半年~1年と短い期間ですが、くじらホームを離れて幼稚園のお友達と過ごした時間は、その子にとって新しい環境への自信になっていると思います。

## 二葉学園

### 地域と繋がる子育てヨガ

#### 地域支援担当 日下部 樹

二葉学園では3年程前から調布市にある本園のホールを使い、地域の子育て中の親御さん向けに保育付きのヨガ教室を開いています。講師は地域の子育てママさん。この方は以前の入所児童のお友達のお母様で、自分も子育てに苦労したので、少しでも地域のお母さん達の力になれたらと始められました。

まずは約1年間試験的に単発企画でのヨガ教室を開催。ニーズがある事がわかり、2年程前から毎月行う現在の形になりました。学園の目的としては地域と繋がれず、子育てに不安を抱えている方が気軽に繋がれる場を作るという意味合いもありました。そこでまず子ども家庭支援センターでチラシを配り、市報や近隣の幼稚園・病院等を通じてお知らせをし、調布市で徐々に人数を増やしていきました。有難い事にキャンセル待ちになるほど好評を頂き、今では継続利用の方が半数を超えています。ただ、まだ多くの方が子育てに不安を抱えたまま地域と繋がれずにいるのでは、と感じています。そんな方と繋がる方法を見つけていくのが今後の課題です。

あるお母様から子育ての悩みを打ち明けられる事がありました。その方は継続利用をし、職員とも関

係が築けてきたことで、徐々にお子さんの話をするようになっていました。お母様はお子さんの発達をととても気にされていて、「このヨガが唯一の息抜き」と話されていました。お母様の気持ちに寄り添い、他の職員とも相談し、発達や子育ての相談窓口として子ども家庭支援センターがあることをお伝えしました。お母様はその存在を知らなかったようで、「今度行ってみます!」とおっしゃっていました。この事は学園が目指している子育て支援の一つの働きが出来たのではないかと感じる出来事でした。

この件もきっかけになり、今後の地域支援に繋がられることはないかと現状を見てもらう為、本園勤務の心理職の方に保育に入って頂くことになりました。

今後も二葉学園が出来る支援を考え、更なる展開をしていきたいと思っています。





### 自立支援・地域連携コーディネーター 竹村 雅裕



社会的養護のことを気軽に知ってもらえる場づくりとして、当施設では2015年6月より「オープンカフェふたば」という取り組みを行っています。児童養護施設や養育里親についての説明や当施設でのボランティア活動について、アフターケアの現状などを地

域の方々にお話し、飲み物やお菓子をいただきながらざっくばらんに意見交換をしています。

前身の都立時代も含め当施設は40年以上の歴史があり、78名(定員数)もの子どもたちが生活しているにも関わらず、あまり地域には知られておらず、障がい児施設や私立の学校だと間違われることもあるような状況でした。子どもたちの豊かな育ちを保証するためにも、閉鎖的ではなく地域に開かれた施設として、多くの信頼できる大人との関わりや様々

な社会経験が得られる環境にしたいという思いがオープンカフェふたばを始めたきっかけです。

現在までに26回開催をし、延べ304名の方に参加していただきました。「昔から近所に住んでるけど初めて入ったよ」とおっしゃってくださった方。「養育里親や児童養護施設のことをもっと知りたいと思ってきました」とわざわざネットで調べて足を運んでくださった遠方の方。またボランティアや就職を希望する方まで、様々な立場・年齢の方にご参加いただいております。

この「オープンカフェふたば」がきっかけとなり、子どもたちへのアートワークショップの企画が生まれたり、フレンドホーム(幼稚園・学校が長期休みの期間に施設の子を数日間家庭にてお預かりいただく制度)に登録をしてくださる方がいたり、はたまた当法人に就職をしてくれる方(!)がいたりなど、社会的養護を知ってもらうだけではなく、新たなつながりが生まれる場になっていることは、私たちにとっても嬉しい驚きです。

小さな、小さな取り組みではありますが、みんなで子どもを育てる地域作りに貢献できる施設でありたいと願っています。

## 地域子育て支援センター二葉

## 二葉ができること

### 地域子育て支援センター二葉 主任 橋爪 主税

地域子育て支援センター二葉は、今年で開設16周年目になりました。これまでの活動は、地域で子育てされている皆様の子育てニーズに耳を傾けながら、関係機関、行政と連携しながらすすめてきました。また、委託された事業を展開していくことで、その活動が、地域の子育て世代に理解され安定した利用につながっています。

最近の利用状況は、新聞等でも取り上げられていたように、育児をしながら就労をしている子育て世代が増加していることにより、一日4時間までの一時保育事業では、保育所入所が決まるまでの利用が多い傾向にあります。ひろば事業では日曜日に母子で利用されているご家庭が多いです。お話を伺うと、ご主人のお仕事が多忙で、週末にお休みが取りづらい等の事情があるようです。ショートステイ事業は、年々利用が増加しており、理由としては、育児に不

安や疲れを感じているご家庭の利用が非常に多く、支援が少ない中で育児をしているご家庭の負担を早い段階に軽減していくことの必要性は高まっています。そのような部分に対応できる、出産前からの家庭訪問型支援であるホームスタート事業利用も今以上に重要となってくることが予想されています。

社会の就労状況の変化や、子育て世帯の生活の変化、子育て事態の変化など、様々なことが重なって、子育て世代の課題は複雑になり、ニーズは多様化してきています。これまでも、そうでしたが、地域子育て支援センター二葉をご利用される方々の1つ1つのお話を丁寧に聞き取り、利用者に寄り添っていく姿勢を大切に、そこから見える社会の様子をしっかりとつかみとって事業全体の反映させていくことが地域や、社会が抱えている課題を良い方向へと変えていくことを信じ、これまで以上に人との繋がりを大切にしていきたいです。



指導員 金崎 慎太郎

トリノスは事業所開設より2年が経過しやっと3年目を迎えました。この2年間トリノスは「地域との繋がり」を大切にしてきました。地域と一言と言っても、回覧版を回すお隣さん、地区の自治会長さん、日野市の社会福祉協議会や民生委員の方々等様々な地域の方との繋がりがあります。

地域において歴史の浅い施設として地域とどう繋がるか。突き詰めて考えると、その方法はご挨拶と感謝の気持ち、それと自分達を知ってもらうこと、これに尽きると思います。児童福祉分野内でも自立援助ホームのことは世の中の殆どの人は名前も知りません。私達の事業を知ってもらうことが繋がりへの第一歩になります。

小規模な事業所のため、地域との取り組みといっても行事の主催等は難しく、トリノスが出来ることと言えば、地域のごみ拾いのお手伝い、お祭り準備のお手伝い、地域の避難訓練への参加といったものばかりでしたが、お手伝いに継続して参加をしてい

ると、顔を覚えてもらい、声をかけてもらい、ホームを訪ねてもらえるようにもなりました。

それだけでなく、「会社で一から育てます。このような形で協力が出来るなら」と言って入居者への仕事の紹介をしてくれる方や「(職員が挨拶に出ると)わざわざ気を使わなくても。私がしたいだけだから」と言い季節の花をそっとトリノスの庭へ植えてくれる方、個別に入居者へお手紙を書いていた方など地域の方々には本当に色々なご支援をいただいています。

開設から今まで様々な地域の方のご理解とご支援をいただきながらの運営をしています。この場をお借りして改めて今までトリノスに関わっていただいた全ての人、団体の皆様に対してお礼を申し上げます。いつも、トリノスのこと、入居者のこと、さらには職員のことにも気にかけていただきありがとうございます。皆様のお気持ちを必ず何かの形で返しできるように、今日も朝から仕事へ向かう入居者を見送りながらその様に思っております。



法人本部事務局着任のごあいさつ



はじめまして。7月1日より法人本部事務局に勤務することになりました吉松朋子と申します。

これまで私は、児童館、学童保育、社会福祉協議会等で、地域の中で子ども達の育ちを支え、ご家族を支えるような仕事を行ってきました。その他にも、語学留学や株式会社で働く機会にも恵まれ、様々な世界に身を置く中で視野を広げてきました。それらの経験を通じ、私は「人が自ら学び取り、変化していく(育っていく)場所をつくり、支える仕事」に一番魅

力を感じています。

今回の法人本部での仕事は、私にとっては未知の分野ですが、とても携わってみたい仕事でした。今は日々多くの方に支えて頂き、実務を通じて学び続ける毎日です。

二葉保育園の職員集団は、高いプロ意識を持ち、仕事を行っている人が多く、人や子どもたちを見る目がとても温かいです。

その子がその子らしく、その子の育ちたいように育っていけるように、事務の面から支えて行ける一職員となれるよう精進致します。どうぞよろしくお願い致します。

法人本部 事務局 吉松 朋子

## 「二葉の子ども達の好奇心を伸ばしたい」

二葉むさしが丘学園 調理員 土江 貴士



こんにちは。二葉むさしが丘学園で調理員として勤務している土江貴士と申します。

「職員資質向上助成制度」を利用していただき、現在は日本菓子専門学校通信制に通っています。

入職する以前は、レストランでコックをしていました。私はこれまでに児童福祉の仕事の経験が全くなかったこともあり、入職当初から児童たちと積極的に関わるように心がけてきました。ケアワーカーや専門職ほど直接的に介入できることは少ないものの、児童たちが気兼ねなく遊びに来られる場所として「調理室」がオープンな環境になるよう心がけてきました。その傍、児童の調理実習、寮舎での夕飯作り、その他の生活場面にも寮舎の生活環境を尊重した上で、生活の場面に関わることを意識しながら業務にあたってきました。そんな中、児童との会話で「パティシエになりたい」「調理の資格を取る学校に行きたい」と将来の進路を語る彼ら彼女らの声に触れました。特にお菓子作りに興味を示す児童が多いように感じました。二葉むさしが丘学園では3時のおやつに手作りのお菓子を提供しており、その影響もあるのだと思います。

10代の児童たちが自らの進路を言葉にするということは、本当に素晴らしいことだと思います。そんな声にしっかりと応えてあげたい、そう考えるようになりました。現在、施設児童の進路として大学進学を選択する児童は増えています。しかしながら多額の奨学金返還の債務リスクを抱えながら大学進学を達成できても、中退せずに卒業・就職をするということは様々な点において未だハードルが高いようにも感じていま

す。もちろん大学に進学して、就職先にも恵まれて、というのが1つの理想形ではありますが、もっと多様な選択肢を提示していくことも大切なことではないかなと、思います。10年後20年後を考えたときに、「手に職がある」というのはやはり大きな強みになると思います。大学や短大への進路サポートと同時に、そのほかの技術職、私の場合は料理人やパティシエという選択も進路の1つとしてサポートをしていきたいと考えています。また、今後の法人の取り組みとして、例えば「子ども食堂」のような構想がある時には、積極的に協力させていただきたいとも考えています。

大人になってから学校へ通うという久しぶりの経験をしてみて感じたことがあります。児童たちと近い視線を持てたことです。児童養護施設には通信制の高校に通っている児童もいますが、彼らも私も同じようなものです。支援をする上で、「自分は大人だから」と上から目線になるのではなく、児童たちと同じ目の高さで関わっていただけたらと思います。改めて社会人になってからも学んでいくことの大切さを痛感しました。この年になって、自分の得意な分野でさえもまだまだ知らない事に気付かされます。

この「職員資質向上助成制度」は法人職員のモチベーションを高めることの助けになると思います。職員個々のスキルアップはもちろんのこと、人としての価値観の裾野を広げていくための大きなサポートになります。そして、このような制度を実施できることや「勉強したい」と思う職員を他の職員が様々な形で支えてくれる環境がある、ということは法人の将来にとって大きな強みになるだろう、と確信しています。拙文、最後まで読んでいただきありがとうございました。これからもこの法人の職員として向上していきたいと思っています。



## 平成29年度 二葉支援の会にご寄付をお寄せ下さった皆様

二葉支援の会では、平成28年度まで取り組んできた施設改築の終了を受けて、平成29年度からは、「二葉を巣立った人々への自立支援」に力を入れていくという目標を掲げてまいりました。多くの皆さまに、この趣旨をご理解いただいた結果、総額5,953,874円ものご寄付が集まりました。また、書き損じハガキや未使用切手を集める「もったいない寄附」にも多くのご協力を頂き、79,048円分の書き損じハガキと未使用切手が集まりました。感謝をもってご報告申し上げます。

なお、頂いたご寄付は次のように活用していく予定です。①自立援助ホームトリノスの運営費補助として100万円、②二葉奨学金に170万円(奨学生は3名)、③アフターケア基金へ100万円、④各施設の具体的な使途に総額130万円(詳細は以下)、残金は、本部経費に充当します。また、現在準備段階の自立支援に取り組んでいくプロジェクトに、10万円を積立てます。

### ④各施設の具体的な使途

○自立援助ホームトリノス	ホーム用携帯契約・機種代	100,000円	
○二葉むさしが丘学園	ファミリーホーム 準備金	500,000円	
○二葉南元保育園	絵本新調・入替	350,000円	
○地域子育て支援センター二葉(乳児院内)大型遊具購入代		350,000円	合計130万円

## ご寄付をお寄せ下さった皆様 (敬称略)

愛知 芙美子	片山 雅子	丹井 逸子	ミヤモト イズミ
阿部 久美子	加藤 公子	丹沢 美智子	武藤 素明
網野 武博	金子 恵美	千葉 たき子	宗像 雅子
新井 美津子	金城 清志	富田 護	元橋 三千代
石井 賢俊	河津 英彦	中井 龍太郎	盛 和子
石川 滋	菊田 桂子	中村 恵子	門馬 友直
伊豆 道子	小林 篤志	西村 道子	谷中 信一
磯部 日出夫	駒崎 幸	野口 三重子	八幡 則子
伊藤 陽子	小又 光江	野澤 理子	山浦 晟暉
井上 従子	小山 和子	野津手 真理子	山川 和代
岩本 和雄・隆子	護山 千津子	橋口 英二郎	山崎 美貴子
植木 すみえ	坂倉 綾子	橋本 康彦	山田 あきこ
上野 潤子	坂本 和子	長谷川 ともみ	山田 美和子
植山 洋子	坂本 正路	羽仁 カンタ・昌子	吉田 恒雄
馬見塚 統子	佐々木 静子	林 浩康	愛知保育問題研究会
宇都 栄子	佐藤 政雄	東山 靖子	大塚商会
梅原 晴江	穴戸 健夫	樋口 えみ子	女子学院 宗教部
遠藤 敦子	シバタ ナオヤ	福田 敏朗	(有)ニドインダストリアル
大島 尚子	清水 真一	藤澤 晴子	デザイン事務所
太田 清子	下平 ケンジ	藤原 誠	東中野教会
大竹 智	菅谷 広子	古川 孝順	東中野教会 有志の皆様
大野 恵子	鈴木 博人	ホドツカ シゲオ	四谷こども園 ひまわりの会
岡崎 瑠美子	鈴木 伶子	町田 とし江	(株)東海リライアンス
奥野 恵子	陶山 義雄	松本 園子	(株)クロッシング・フォーラム
奥野 弘史	瀬尾 義広	真鍋 美一	もったいない寄付
押切 重洋	関 幸子	水谷 宏一	
笠原 勝子	高木 みさ子	宮沢 成実	
片倉 昭子	高橋 和代	宮本 泉	

## 「二葉支援の会」への寄付について

二葉保育園では、「二葉支援の会」が中心となって、法人内の各施設の事業や組織運営を支えていく活動を行っています。ご寄付は、年一口5,000円以上をお願いしておりますが、金額は問わず、一人でも多くの方にご支援を頂きたいと思っております。ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★当法人へのご寄付は社会福祉事業への寄付として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置(寄付金控除)が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

### 「二葉支援の会」お問い合わせ

#### 社会福祉法人二葉保育園 法人本部

電話 **03-3341-1205** (平日10時~17時)

E-mail **info@futaba-yuka.or.jp**

#### 郵便振替

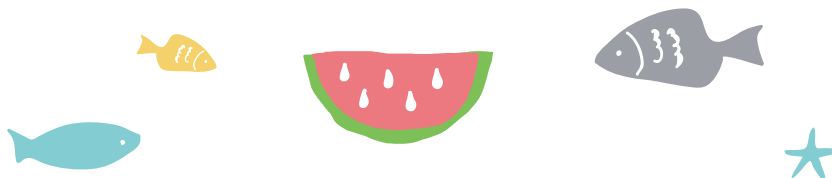
□座番号：00120-2-30321  
□座名義：社会福祉法人二葉保育園

#### 銀行振込

三菱東京UFJ銀行 支店名：四谷支店  
□座番号：普通0506208  
□座名義：(福祉)二葉保育園 理事長 遠藤久江

#### クレジットカード

社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄付のお願い」ページからお手続き頂けます。



## 社会福祉法人 二葉保育園 概要 (2018年8月16日現在)

### 法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地  
TEL：03-3341-1205/FAX：03-5368-1969  
設立：1900年(明治33年)  
理事長：遠藤 久江  
常務理事：武藤 素明  
理事：河津 英彦、押切 重洋、福田 敏朗、都留 和光、  
町田 とし江、井上 従子  
評議員：宮沢 成美、鈴木 美邦、磯谷 文明、市東 和子、  
吉村 晴美、鈴木 重正、金子 恵美、潮谷 恵美  
監事：園 武友、乾川 日出夫  
職員：4名

### 二葉乳児院・地域子育て支援センター二葉

院長 都留 和光  
児童定員：40名 職員：83名  
住所：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地  
TEL：03-3359-4578/FAX：03-3359-4596

### 二葉学園

統括園長：武藤 素明 園長：小倉 要  
児童定員：52名(グループホーム7ヶ所を含む)  
職員：73名  
住所 本園：〒182-0035  
東京都調布市上石原2-17-7  
TEL：042-482-2578/FAX：042-480-5200

### 二葉南元保育園

園長：町田 とし江  
児童定員：110名 職員：52名  
住所 本園：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地  
TEL：03-3351-3819/FAX：03-3357-3707

### 二葉くすのき保育園

園長：森本 裕美  
児童定員：100名 職員：41名  
住所：〒182-0022  
東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号  
TEL：042-487-8309/FAX：042-487-8326

### 二葉むさしが丘学園

統括園長：武藤 素明 園長：菅原 淳史  
児童定員 本園：60名(一時保護6名を含む)  
グループホーム：18名、職員：65名  
住所 本園：〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1  
TEL：042-344-9911/FAX：042-345-7836

### 自立援助ホーム トリノス

統括園長：武藤 素明 ホーム長：渡辺 剛史  
児童定員(男子)：6名 職員：4名  
住所：〒191-0021 東京都日野市石田1-28-10  
TEL：042-586-0005/FAX：042-586-0041